平成３０年度　第１回　ひたちなか市総合教育会議　議事録

１　日時　平成３１年３月１９日（火）
　　開会　午後２時００分
　　閉会　午後３時３７分

２　場所　ひたちなか市役所　第３分庁舎　防災会議室２・３

３　出席者
【構成員】
　ひたちなか市長　大谷　明
　ひたちなか市教育委員会
　　教育長　野沢　恵子
　　教育委員（教育長職務代理者）　石田　厚子
　　教育委員　西野　信弘
　　教育委員　白石　愛子
　　教育委員　石川　拓也

【事務局等】
（市長部局）
　　総務部長　稲田　修一
　　参事兼総務課長　岩崎　龍士
　　総務課長補佐　永井　晶子
　　総務課総務係長　菊池　徳
　　総務課総務係主任　黒澤　敬子

（教育委員会事務局）
　　教育次長　福地　佳子
　　参事兼総務課長　井上　亨
　　総務課長補佐　一木　宙
　　総務課総務係長　狩谷　智則
　　参事兼指導課長　樫村　嘉通
　　施設整備課長　澤畠　恵一
　　参事兼青少年課長　堀江　貴美代
　　青少年課副参事　植野　健一
　　中央図書館長　笹沼　義孝

学務課長　小澤　功
学務課副参事兼保健給食室長　根本　光恵
福祉事務所長兼社会福祉課長　湯浅　博人
社会福祉課長補佐兼社会係長　白田　佳宏

【傍聴者】　０名

４　会議概要

【開会】

（司会）

只今から，平成３０年度第１回ひたちなか市総合教育会議を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます，総務部総務課の岩崎でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに本会議は，地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき，原則，公開することとなっております。本日の議事録につきましても，後日，ひたちなか市ホームページにて公開することとなりますので，よろしくお願いいたします。それでは次第により会議を進めさせていただきたいと思います。

はじめに大谷市長よりご挨拶をお願いいたします。

【あいさつ】

（大谷市長）

本日は，教育委員の皆様には年度末のお忙しいところ，平成３０年度第１回「ひたちなか市総合教育会議」にご出席いただきましてありがとうございます。

また，皆様には平素から本市の教育行政にご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。皆様ご存知のとおり，平成２７年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い，教育委員会の皆様と市長との協議の場として「総合教育会議」が設置されたところです。それから毎年度１回ずつ開催し，「教育の大綱」の策定や教育の現場等においての課題について，色々とご意見を頂戴し，また協議いただいたと伺っております。本日は，現在の教育の大綱が策定されてから３年半が経過しようとしておりますが，その間，国の教育振興基本計画が見直され，また教育における環境も変化しているところでありますので，教育について日頃より感じていることを「教育の大綱」を踏まえた上で皆様と一緒に意見交換させていただき，本市の教育について更に良い方向に進めて行くための足がかりとしていきたいと考えております。委員の皆様には，この総合教育会議を含め，今後ともひたちなか市の教育のためにお力添えを賜りますようお願い申し上げ，私のあいさつとさせていただきます。

（司会）
　ありがとうございました。それでは，協議に入る前に出席しております市の職員及び教育委員会の職員を紹介させていただきます。
（総務部長，総務課，教育次長，教育委員会事務局，福祉事務所関係部署）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（１）教育の大綱について
（司会）
　教育の大綱の概要について，教育委員会事務局総務課より説明をお願いいたします。

【説明】
（教育委員会事務局）
　教育委員会総務課の井上です。私から大綱について説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
　まず教育の大綱の法的な位置づけについて，確認をさせていただきたいと思います。先程，市長の挨拶の中にもありましたとおり，この大綱の根拠としましては,「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が根拠となっております。策定主体としましては，地方公共団体の長，つまり市長が策定をしてまいります。策定または変更については，この総合教育会議に協議をする必要性がございます。また，内容でございますが「地方公共団体における教育，学術及び文化の振興に関する施策の根本となる方針」これを定めるのが大綱でございます。国の教育振興基本計画を参酌する必要はございますが，当然，地方の実状に応じて策定することとなっております。また，大綱は「詳細な施策について，策定することまでは求めているものではない」ということでございます。この大綱の対象期間については定めがございません。ただし，首長の任期が４年であること，また国の教育振興基本計画の対象期間が５年であるということを鑑みて，文部科学省の通知では４年から５年が策定期間といわれているところです。
　次に本市の「教育の大綱」について確認をしていきたいと思います。平成２７年１０月に策定し，目指すべき『子ども像』として「知性と豊かな人間性を備えた心身ともにたくましい子ども」と掲げております。

ひたちなか市の教育の目標といたしまして，以下の５点，
　○ひとりひとりの能力を開発し，豊かな人間性をつちかいます
　○じょうぶな身体をつくり，たくましい心を養います

〇家庭や地域と力をあわせ，豊かな心を育みます
〇ふるさとを愛し，協力しあう心を育てます
〇世界に視野を広げ，国際人としての自覚を高めます　でございます。

また，学校教育に対する振興のスローガンでございますが，「夢・感動・笑顔がひろがる教育のまちひたちなか」を掲げているところでございます。

ひたちなか市の教育の大綱の基本施策でございますが，６つの基本施策を掲げているところであります。

１つ目は「確かな学力を育む教育の充実」
２つ目は「豊かな人間性を育む教育の充実」
３つ目は「健やかな体の育成と命を守るための教育の充実」
４つ目は「郷土愛に満ちた国際人の育成」
５つ目は「時代の変化に対応した学校の創造」
そして６つ目は「質の高い教育環境の整備・充実」でございます。

この大綱に示された基本施策を具体的に推進するために，平成２７年度に策定された「ひたちなか市学校教育振興基本計画」がございます。この計画は，期間が平成２７年度から平成３２年度までとなっております。内容について説明させていただきますと，教育の大綱の６つの基本施策は重点推進事業でございます。「学校教育振興基本計画」の中に全部で８２の事業が位置付けられておりますが，その中の２６事業を重点推進事業として掲げております。

次に，本市の「学校教育振興基本計画」が国・県等の計画とどのように計画期間でリンクしていくのか，それらのものに対して確認をしていきます。大綱を策定したのは先程も申し上げましたとおり，平成２７年１０月でございます。教育振興基本計画は国の第２期のものを参酌してございます。その後，国は平成３０年６月１５日に閣議決定され，第３期に入り平成３４年度までの計画となっております。

また，県の「いばらき教育プラン」も平成３２年度まで，平成３３年度からは次期５年間の計画となります。本市の第３次総合計画につきましても，現在，１０年間の基本構想の中の前期基本計画の最中でございますが，平成３２年度までが前期計画課程であり，平成３３年度からは後期計画となってございます。その期間とリンクするように，本市の学校教育振興基本計画については平成３２年度までとしているところです。

次に，国が第３期教育振興基本計画を策定する際に，教育を取り巻く環境など，色々なことに着目してきたことを中心に説明したいと思います。国は，この第３期教育振興基本計画をまとめる際に，社会の現状，「２０３０年度問題」いわゆる３人に１人が６５歳以上の高齢者になる時代の到来についての時代背

景を見据えた課題としまして，人口減少の進展，高齢化の進展，技術革新の進展，これはＩｏＴやビックデータ，グローバル化の進展，国際化などを挙げました。また，地域間格差も課題として挙げております。子どもの貧困，地域コミュニティの弱体化なども教育をめぐる現状の課題と捉えております。

その中でも，大きく２つの社会の到来について着目していきます。大きな２つの時代とは，１つは「超スマート社会」，もう１つは「人生１００年時代」です。

まず，「超スマート社会」の到来について簡単に説明いたしますと，今「超スマート社会」というＳｏｃｉｅｔｙ５．０に向けて世の中が動いておりますが，Ｓｏｃｉｅｔｙ１の狩猟から農耕，工業，情報の時代をうけまして，今後は「超スマート社会」へと移行していくわけでございます。ビックデータ，人工知能ＡＩ，ＩｏＴ，ロボットといったものが経済発展と社会的課題の解決を両立するといわれております。

その経済発展や社会的課題の解決というものを国はさまざまなかたちで捉えており，例えば経済発展であればエネルギー需要増加，今後，食料が需要増加していくこと，寿命が伸び高齢化が進み，国際的な競争が激化し，富の集中や地域間の不平等，そういったものが生まれてくる。解決しなくてはならない社会的課題としては，温室効果ガスといったものの排出削減，食料の増産やロスの削減，社会コストの抑制，持続可能な産業化，富の再配分や地域間の格差是正でございます。それらをＳｏｃｉｅｔｙ５．０で経済発展と社会的課題の解決と両立させ解決していく，そういった時代が来るだろうとし，いわゆるサイバー空間や仮想空間の中にあるビックデータなどの非常に大きなデータを，人間がコントロールし，取捨していくことが限界にきており，そういったものを人工知能ＡＩがしっかりと選択し，ＩｏＴ，インターネットが人と全てのものを繋いでいく。これらを利用しながら，さらに実行していくものがロボット，ドローンなどで，これらを頼らなくてはなかなか経済発展と社会的課題の解決は両立できないと捉えているようです。

もう１つの大きな時代の到来として「人生１００年時代」の到来です。医療の進歩や生活水準の向上により平均寿命が延び，「人生１００年時代」の到来が迫っていると予測されております。このモデルについては国のリーフレット等に記載されているものでございますが，これまでの人生のステージを１つは「スリーステージモデル」とし，みんなが平等に同じ期間に教育を受けて同じ期間に卒業し，同じ時期に就職をして，同じ時期に退職をし，引退をしていくといった単純な図式だったものが，今後の社会では「マルチステージ」の人生ということで，教育を受けていながら場合によっては働いて，また働いた後に「探検」とされておりますが，自分探しの旅，後は語学留学，色々と人生を深める

ための「探検」，会社勤めだけではなく組織に雇われない働き方や「ポートフォリオ型」といった有給の仕事と様々な活動や自分を高めていく活動，ボランティア活動，そういったものを組み合わせた生き方，それをここでは「移行」としてございますが，これをただ流れてくるだけではなくて，ここに２つ３つと移行しながら最終的には引退をし，「人生１００年時代」のため引退した後も，例えばボランティア等により地域で社会の課題解決に向けた活動するなどといった取り組みが今後は一般的になると考えられているようです。そういった時代背景，到来する今後の大きな変化といったものを捉え，国は第２期の教育振興基本計画で掲げた「自立」，「協働」，「創造」を継承しながら「人生１００年時代」と「Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０」の到来に向けて，政府が取り組みを進めている「人づくり革命」，「生産性革命」に教育施策として貢献することが喫緊の課題だと捉えているようです。さらに教育を通じて生涯でひとり一人の可能性，チャンスを最大化すること，「人生１００年時代」でこれらを最大化することで，教育政策の中心とする取り組みが必要性であること，第３期の教育振興基本計画を策定しているという内容がリーフレットの方に記載されております。最終的に方針を５つ掲げておりますが，そういった時代背景のなかで国は第２期から第３期に向けてきたということでございます。私の方からの説明は以上でございます。

（司会）
ありがとうございました。只今，本市の教育の大綱，学校教育振興計画，そして国の第３期教育振興基本計画について説明をいただきました。この説明についてご質問があればお願いいたします。
特にご質問が無ければ，次の「意見交換」に移らせていただきたいと思います。

【意見交換】
（司会）
本日は，大谷市長就任後，初めての総合教育会議でございます。「教育の大綱」を中心にして，本市の教育の現在の状況，またこれからの教育の在り方等，幅広く意見交換の場としてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（大谷市長）
教育の大綱について説明がありましたが，それぞれのお立場で教育に関すること，学校教育のみならず生涯学習を含めたこと，また，産業面から人材教育

に関するご意見もあるかと思います。まとまらなくて全然構いませんので，ご意見を頂戴したいと考えております。

（石川委員）
私は今の教育大綱についてとてもよくできていると感じております。今は，教育の現場も色々と複雑になってきておりますが，私の原点というのは，やはり教師だと思っています。私達が児童・生徒の時代も「先生」が魅力のある先生だと学級が変わりました。教師という存在は非常に大事なもので，子ども達は教師によって大きく変わります。教師の「教育力」によって子ども達の学習意識が変わります。
平成２８年度に秋田県が教育の基本方針で，授業の進め方などをまとめた「あきたのそこぢから」というものを策定しました。これに従って年齢も専門も違う秋田県の先生方が同じ方向に一斉に動きだしました。そして２年間で学力診断テストの結果が全国トップになりました。また学力だけでなく運動部も強く，吹奏楽も素晴らしい。授業の進め方など，教育の原点は幼稚園も含めて，教師にあると考えております。

（大谷市長）
「教育力」というキーワードが出てきましたが，石川委員の考える「教育力」をもう少し掘り下げて教えていただけますか。

（石川委員）
「教育力」とは，教科教育について子ども達に理解を促す力です。教師は子ども達が授業の中で躓きのないように，できるだけきめ細かく補足することが大事です。また子ども達が小学校や中学校で自分が与えられた授業時間の中で精一杯取り組めるような環境を整えることも大事ですが，あとは教師力によります。

（大谷市長）
ありがとうございます。学校の教師であったという立場と，また自己紹介の中で一市民としての話もありましたが，皆様も教育委員として長く携わっていていただいている部分以外でも，それぞれの立場の中で何か思うことがあれば，教えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（石田委員）
私は運動神経が良くはなかったのですが，小学生の時に，担任の先生が体育

の先生に代わったところ，跳び箱も簡単に飛べるようになり，またプールも泳げるようになりました。すごく運動面の能力が伸びた時期がありました。

小学校では，今も教科担任制になっていない学校がほとんどですが，先生が得意な授業によって，子どもの伸び方は変わるのではないかと思います。そういう思いの中で，教科担任制が進んでいない状況に対して思うところはあります。また，先生と子どもの相性もあります。小学校では１日中同じ先生といることがほとんどで，一度相性が悪くなると学校に行きたくなくなってしまうこともあると思います。そういった場合に，相性の良くない先生と接する時間が必要以上に多くなければ，子どもが学校に行きたくないと思いにくくなるのではないかと思います。

話は変わりますが，先日テレビでひたちなか市が秘境と放送されていてショックを受けました。

（大谷市長）

中根駅あたりですね。放送されていましたね。

（石田委員）

すごく驚いて，知り合いに「急いでテレビを観て」と連絡してしまいました。ひたちなか市は海があって，畑があって，工場もあって色々なことを実際に体験できる場所だと思います。本や座学ではなくて，色々な体験をたくさんしていくことが大きな経験になり，「やってみようという気持ち」が起きる子どもになるのではないかと思います。

（大谷市長）

先ほどの話の中で「体験」というものは座学では得られない，また違う学び場とありましたが，「体験」にまつわる思いとか，「こういう体験」を「こういうタイミング」でするのはどうだろうとか，そういった具体的なイメージはありますか。

（石田委員）

以前，知り合いの農家の人に聞いたのですが，水戸の学校で芋ほり体験をする時に，引率の先生が，手袋や軍手，ビニールで手が汚れないようにガードしていたそうです。土を触って確かめ，その感触まで感じてもらい，農業はこういうものだということを体験してほしいと農家の方は思っていたそうなのですが，先生がそのようにガードしていると，子どももガードして土を触らないそうです。そのような状態での芋ほりや収穫体験というのは，何か違うのではな

いかと思ったそうです。手で感じ，五感で色々と感じることが必要なのではないか，また，そこまで汚れないことが大事なのか，更に言えば，農業は汚いと思われるのも嫌だな，という話を農家の方としました。
　今は学校も忙しく，土いじりから何かを育てることや，実験することがすごく少なくなっていると思います。ですが理科でも家庭科でも，やっぱり実際やってみるというのが大事だと思います。

（大谷市長）
　土を触る機会など確かに少なくなっているかもしれないですね。
　ところで西野委員は会社を経営されていらっしゃいますが，経済の側面から，就職してひたちなかを支える人材をどう育てるかという視点を含めて，教育という全般に関してどう思われますか。

（西野委員）
　今は，求人側である我々が「人手不足」という状況ですが，求職側はＩＴの普及によって，求人状況をいつでもインターネットで見ることができます。そういう意味では新しい職を求めて今いる職場を辞めやすい環境となっています。
　辞めることは仕方ないことですが，余程の優秀な人以外は，普通２・３年で一通りの仕事を覚えます。しかし，上司が面白くないなどのちょっとした感情や理由で仕事を辞めてしまい，一人前になれずに次の職場でも同じことを繰り返しているうちに３０代半ばになってしまう人がいます。
　しかし何回も転職した人は，今度は採用側から「この人何回も辞めているから」と判断されて採用されにくくなっていく。基本的に，勤続し続ければ，年功序列的に給料が上がって，休める環境もでき，結婚もできて子どもも育てられる経済状況になっていきます。でも辞めてばかりいると，給料や休暇が安定しない状況となってしまうことに若いうちは気づきにくい。今後，日本経済や世界経済が不安定になったとき，求人が減れば転々と転職している人達の状況はますます厳しくなってくるのではないかと思います。
　個人的に感じていることとしては，今の人達は自分で勉強しない。また，本を読まない人が多いと感じます。会社に勉強する人がいなければ，もうその企業はダメになっていくと思います。

（大谷市長）
　やっぱり会社の立場からいうと，人の流動性が高すぎると会社のノウハウの蓄積ができないということもあるでしょうね。与えられた場所，環境で，努力ができる人間というのはどういうタイプなのかということを考える必要があり

そうですね。

（西野委員）
　なかなか理解できない人もいますが，できない人はできないなりに，自分のやれることをやって給料を稼ぎますね。

（大谷市長）
　ありがとうございます。白石委員は保護者の立場，あるいは子どもの発育，その後の生き方など，色々な切り口があるかと思いますがいかがでしょうか。

（白石委員）
　皆さんの話を聞いて，学校に魅力があれば保護者ももっと学校にかかわるようになり，親しみやすい学校になって，そうして保護者がＰＴＡに参加しよう，授業参観に出よう，懇談会に出ようと，そういう気持ちになるのではないかと思いました。小学校では，多くの保護者が学校とかかわりますが，中学校になると懇談会に行くことが少なくなり，高校になるとクラスで２・３人の親しかいないような状況となっています。
　私は湊二小のＰＴＡで，朝のあいさつ運動実行委員会として活動をしていたことがあるのですが，そのような活動をしていることを知らない人が凄く多いです。学校が良くなるために先生達が夏休みの教育研修など，子ども達のために実際やっていることはたくさんあると思います。そういった活動を知らない保護者が多いため，学校の先生達の活動や学校のためにしている活動をもっと発信していけば，興味のある方が，きっともっと協力的になってくれるのではないかと思います。実際，かかわると楽しいことがたくさんあります。
　先生と色々な話ができるようになり，また，色々な人と繋がりができます。子ども達は，先生によって本当に変わります。魅力ある先生は，子ども達も大好きだと思います。別に子どもに媚びを売る必要はなく，先生方の熱心な思いや頑張りは子どもに伝わります。そういう気持ちが保護者にも伝わって，この先生になら安心して任せられるって思うような関係性になるのかなと思います。
　子どもの環境も昔と今では変わってきています。基本は家庭で教えることを，学校側に頼むことが増えているように思います。「なんで子どもにゲームが良くないのか」，「なぜスマホが子どもにいけないのか」，そういう疑問が子ども達だけではなく，親も理由を知らないことが多くあります。親の話す言葉が変われば子どもの話す言葉も変わります。親の意識を高めていくことで，子どもも良くなると思います。

（大谷市長）
　私も小学生と保育園の子どもを育てている親ですので，可能な限り保育園や学校にかかわろうと思っていますが，仕事をしていると予定が合わなかったり，先生とコミュニケーションを上手く取れないようなこともあります。このような話に関して，周りの保護者の方の話や感じ方はどうでしょうか。「もっとこうすればいい」であるとか，「私達もかかわっていきたい」という話もあるかと思いますがいかがでしょうか。

（白石委員）
　仕事をしている方は本当に多く，学校とかかわることが大きな負担になっている人も多いと思います。なかには子どもよりも自分が優先だ，というお母さんもいるかと思いますが，多くのお母さん達は，学校との関わりを大切にしようと思っています。学校行事等に積極的に参加しているお母さん達が，かかわれていない人達を引っ張り，巻き込めるようにできればなと思います。私の周りには協力的なお母さんが多いので，皆でできていますが，自分の子どもが，学校で居心地が良いことは大事ですから，そのためにやらなければいけないことについては，皆でやっていこうと，多少無理やりでも，皆さんにできる範囲で協力をお願いしています。

（大谷市長）
　保護者間のつながりというのは，ハードルが高いようですが，実際には楽しいことも凄く多く，一度少しでもかかわってもらうと見える世界が違ってくるのかもしれませんね。
　率直にお聞きしたいのですが，自分の子がどんな子に育ってほしいと思いますか。またどういった力を身に付けた子になってほしいと思いますか。個人的な，ご家庭的な考え方で構いませんのでお話しいただければと思います。

（白石委員）
　今の子は，勉強ができることがすごく大事に思う親が多く，実際勉強ができるにこしたことはないと思いますが，勉強よりもコミュニケーションのような，生きていく力が身についてほしいなと思っています。
　どこに行っても，一人でも大丈夫である力，誰かと一緒にいなければ不安だとか，誰かに何か言われるからあまり好きじゃない人と一緒にいるとかではなく，「一人でも居たいときはちゃんと一人でいられる」，友達にあわせられる力も必要だとは思いますが，自分の意思をきちんと持って生きていく力がある子どもに育ってもらいたいと思っています。

実際，私の子ども達は自由奔放で女の子でも女らしくなくて，「洗い物が面倒くさい」，みんなが何か食べても「私は食べない」といえる子です。
学校で，子どもに何かを任せてみることでリーダーシップ力を育て，また，得意なものを見つけてあげることで，自信をもたせ，そういう経験を持てば周りに目が配れるような子に育つようになると思います。
私の子ども達は，そういった環境の中で保育園や学校，学童でも叱ってもらえるし，本当にありがたいと思います。

（大谷市長）
会社を辞める人の理由で一番多いものが，人間関係だというデータを見たことがあります。西野委員は会社の中でのコミュニケーション能力，人間関係を構築する能力については，どのように思われていますか。

（西野委員）
私はものづくりをしていますので，あんまり人間関係は得意ではないかもしれません。基本的な「報・連・相」などの情報共有をしっかり行って，情報をきちんと伝えることが非常に大事なのではないかと思います。

（大谷市長）
ここまでの中で，学校側や先生側の話，家庭や社会・企業面の話などがありましたが，野沢教育長は何かございますか。

（野沢教育長）
私は，これからの社会がどうなっていくのかについて，先ほど，井上参事からもありましたが，Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０に向けて，社会がかなりハイスピードで進んでいると感じています。
社会が変わっていく中で，これからの教育についてしっかりと考え，どういう人を育てていくのかというところを考えていかなければいけないと感じるところです。今回，国の新指導要領も基本計画についても「社会に開かれ，社会の変化をキャッチし，自分なりの生き方をきちんと自分で考え，自分が幸せに感じ，自分で幸せを作っていく」そういう子ども達を育てていくことが必要ではないのかと考えております。
教育者として，親として，子どもが幸せになるためにはどうすればいいのかということを考えたとき，その答えも「自分が幸せと感じる心を持っていること」，「それをキャッチできる心を作っていくこと」，「これからの時代の，色々な困難に対して乗り越えられる力をつけてあげること」だと思いました。

Ｓｏｃｉｅｔｙ３．０はちょうど工業革命，産業革命の頃で，同じことを集中して長時間できる人達が重宝された時代でした。そのため，教育もその頃は，「先生の言うことを聞きなさい」「みんな一緒にしましょう」といったやり方で，これは短期間でとても効率よく，ミス無くできる方法であったと思います。

ただ，今のＳｏｃｉｅｔｙ４．０，これから迎えるＳｏｃｉｅｔｙ５．０を考えたとき，何が起こるかわからない社会では，上からのトップダウンで動くだけではなく，情報を集め自分で行動し，途中で軌道修正をすることなど柔軟な対応ができる必要があります。

２００７年に生まれた子どもの，５０パーセントが１０７歳まで生きるといわれています。大学で３回学び直すことができると言われており，３０歳というのが一つの目安だと中央教育審議会でいわれておりますが，自分達がエンドレスに１００歳以上まで学び続けること，社会で生きていくこと，いきいきと生きていくこと，それら基となるものをどのようにしたら育てられるのかということを考えているところです。

今後の教育では多様性や主体性，社会と身近な地域，自分が学校で学んだことをすぐに社会や地域で実践できる環境，エデュケーションとテクノロジーが一緒になった環境，教育現場の中でエドテックとよく言いますが，これらの環境づくりがこれからは必要になるのかと思います。その第一歩として，今回，校務支援システムやプログラミング教育など，本当にささやかな一歩ですが，新たなスタートが切られたのだと思います。

（大谷市長）

情報テクノロジーや色々な進化が激しく，物事の価値が多様化し，環境が変化しています。そのなかで自分を見失わずに生きていくための「芯」となるような力が必要である一方で，そういう環境に対応していく力も必要です。

色々な情報が溢れているなかで，自分にとって必要かを見極め，いわゆるリテラシーをきちんと携えておかないと，流されてしまうことがあります。人間の情操的な部分，根幹的となるようなものをどう捉えていくべきなのか。

それをどういったかたちで育むべきなのか，またそれは教育に求められるのか，求められないのか，環境はその都度変わっていきますが，石田委員はいかがでしょうか。

（石田委員）

私の主人はコンピュータが得意だったこともあって，娘２人は小学生の時には１人１台パソコンを与えられていました。

今は，子どもに悪い情報が入らないように制御する必要など色々配慮しなけ

ればならないことがありますが，その時代は，そういう制御なしで使っていても悪い方向にいきませんでした。親が情報をブロックすることも大事ですが，子どもが自分で考えて，悪い方向に行かないようにする，そういう育て方が大事なのではないかと思います。

教育とは少し離れるかもしれませんが，色々な情報を仕入れられる人と，仕入れられない人では，大きな格差ができています。

インターネットが使える人は，そこから情報を仕入れて得をすることができ，使えない人は，そういった情報が分からずお得な特典を受けられないということが実際にあるかと思います。お年寄りに限らず若い人でも，情報媒体を使える人と使えない人では，こういった格差ができていますが，子ども達がそういう情報弱者とならないよう，育てていかなくてはいけないなと思います。

（大谷市長）

悪い方向へいかないようにフィルタリングソフトなどを使いテクノロジーとして制御すること，子ども達が自分で自制できること，こういったことは非行などにも当てはまるかと思います。ある一線を踏み越えてしまう人と，グッとこらえられる人の違いのポイントについて何かありますか。

（石田委員）

やはり日頃の会話でしょうか。自動的に遮断することも必要ですが，遮断しなくても，子どもが考えて踏みとどまれるような情報を教えることが必要だと思います。

（大谷市長）

先ほど，教師の魅力や教師の立場，あとは家庭教育という話もありましたが，そのほかにも，子どもに視点を移した時の，学力の高さの視点，人としての人間力の視点，また，教師の人間力という話もありました。子どもの人間力を育てていくこと，子どもに「芯」のようなものを期待しているということなどについて，教師として接していた時の考え，教師を退職されてからの考え，そのあたりについてうかがいたいと思います。

（石川委員）

教育は人材育成です。詰め込み学習をやめ，主体的に考える力や発見する力を持たせることが大事です。そういう力を養わせるにも，子どもに丸投げするのではなく，学校が教育の場となり，必ず教師がかかわりを持ち，指導していかなければなりません。白石委員からもありましたが，どこかに大人がきちん

とかかわっていく部分がないと，子どもはまっすぐ育たない。やはりそこが大人の責務であり，それらが欠落すると子どもは，まっすぐに育たないと思います。

（大谷市長）
私も子育てをしていますが，親の様々な期待から，子どもには早いうちから習い事をさせる方も多いと思います。ただ子どもにとっての１歳，１歳の時間は大きいとは思っていて，その１歳のなかで，「やるべきこと」をきちんと積み上げていくことが大切だと思うことがあります。
大きな家もそうですが人間性も土台を築くことが大切で，その土台に１歳１歳の「やるべきこと」が積み重なっていくのではないでしょうか。子どもは能力が高いこともあり，１足飛び２足飛びと超えていくこともできてしまいますが，その分，何かを失っていることもあるのではないかと思います。
世の中のスピードが速く，適応させていかなければいけないと思う親の気持ちも分かる一方で，生物としての人間が段取りを踏んでいかないと，本来育つべき何かが上手く育たないような気がしています。

（石川委員）
人としての基礎というのは，家と同じだと思います。小さな基礎の上に大きな家は作れません。お城の石垣と同じように，大きい建物を建てるためには，それなりの基礎をきちんとつくることが大事です。

（大谷市長）
そこをグッと踏み留まり，「今，この子はこういう過程であるから，これを存分にさせて，その次にこれをやらせよう」という教師や親を含めて，きちんと子どもの状況を確認・理解できる関係づくりも大切かもしれません。
実はお母さん方も先生方とそういうことを共有したいと思っているのではないでしょうか。私の周りのお母さん方と話をするなかで，そう感じたところですが，白石委員はどのように感じますか。人としての土台を作る過程について。

（白石委員）
土台作りについて，基本は家庭だと思います。ただ，子どもにとってはじめてのコミュニティは幼稚園や保育園ですので，やはりそこも凄く大事です。色々な人に，子どもは「６歳までに根っこを作るんだよ」と言われ，実際に幼稚園での経験を通し成長する姿から，なるほどなと思いました。
土台や根っこがしっかりしていれば，多少ゆれても倒れずにいられます。そ

ういう根っこを育てるために，親がきちんと導いてあげられるようしっかりしてなくてはならないと思います。

お母さん達も幼稚園や保育園で初めてママ友の付き合いが始まり，そこで面倒だと思う人も少なからずいると思いますが，そこで色々なかたちの親子のコミュニケーションを学び，経験をし，子どもと一緒に成長するのではないでしょうか。

もちろん小学校の６年間で経験することもあります。根っこができて，色々なことを吸収できる時期です。子どもの段階ごとの経験をさせてもらえるような教育をしていただき，またそれらがこういう意味を持つということを親が理解できてはじめて，子育てについて少し安心できるのではないかと思います。

（大谷市長）

小学校から中学校くらいまでは，子ども達が全方位に可能性を探る時期です。「自分は何に向いているのか，どんな可能性があるのか。」色々な体験やチャンスがあり，その中で，わからない部分が出てきて，自分の好きなものが見つかるなど，自分について様々な発見が出てきます。さらに進んでいくと，自分が全能ではなく得手不得手があることを自覚します。

社会に出て仕事をするとき，個人ではなく，チームとして行うことが多いと思います。もちろん一人で進めるものもありますが，やはり大きな仕事はチームを組んでおこなっております。その中で，リーダーとういう役割が必要で，リーダーシップに関して色々な研修や話をすることは多いかと思います。

また一方で，チームとして目的遂行に関して成果を上げていくためには，リーダーをフォローしていくフォロワーシップという視点も重要です。この関係がしっかりとしているチームがやはり強く，そういった能力が，日本のオリンピックチームやなでしこジャパンで見られることからも，日本人はチームプレー能力が非常に強く，高いのではないかと思います。このフォロワーシップという考え方を充実させていくことによって，自分の役割や光るようなポジションを見つけられることがあるのではないかなと思います。

ものづくりの仕事でも，それぞれの行程があり関連させて作業が進みますが，チームとしてのかかわりの中で，それぞれの能力がより活かしあえるという考え方は共通することはありますか。それともまた違う考えがありますか，西野委員いかがでしょう。

（西野委員）

会社では，会議があり，決め事を作り，その決め事を守りながら「誰がいつまでに何を行うのか」「決めた事の理解と実行」「その実行のフォロー」をして

いきますが，実際は上手くはできていない部分もあると思います。
　大企業だと体制が整っており各自が問題意識を持ち，みんながそれぞれで進めていけますが，中小企業は人材の質もばらばらですし，情報共有の決め事についても漠然となっていることもあり，難しい状況にあることが多いです。しかし，漠然と決まっているだけでは物事は進みません。「誰がいつまでに何をやるか」「終わった後のフォロー」を具体的にしていかないと完成まではいけない状況です。

（大谷市長）
　確かに会社の規模や業種によっても違ってくるのかもしれないと思います。

（西野委員）
　大企業であれば仕事ができない人は，その組織の中で，大きな仕事を任されない状況となるだけだと思います。でも中小企業の場合は，それでは仕事が進まないため，何とかそれに対処するための方法などを具体化していかなくてはなりません。

（大谷市長）
　心の教育，音楽や家庭科，図工など色々ありますが，受験が近くなると国語や数学，英語といった教科授業ばかりが重要になる傾向があります。しかし，その教科教育の学力を支えるのは，情操教育ではないかと思います。音楽や図工などの時間が，受験の効率化のため少なくなると，心のバランスが崩れて学ぶ意欲自体が薄れていくという話を聞いたことがあります。
　石川委員は心と知育，知育と学育，心と知識の掛け合わせについて，どのように思われますか。

（石川委員）
　「知・徳・体」という言葉があります。この３つは，どれか一つでも欠けてしまうと子どもは育たないそうです。教科の勉強については，確かに受験のための教育で，ただ社会への基本的な力を身につけるためには必要です。しかし，豊かな心を持った子ども達を育てるためには，情操教育が一番大事であると思います。情操教育は，環境を整えていることが非常に大事で，学校教育だけでは補えないものを，家庭，それから地域で補う協力が必要だと感じています。秋田県の例がありましたが，秋田県では，できるだけ住んでいる市町村のイベントや行事に子ども達をかかわらせています。試験以外のそういう体験が経験値として溜まっていき，そういった経験で得られたものが子どもに身につくと，

「自己判断力がつく」ことに繋がるのだと思います。また，子ども達にとって新しい社会との繋がりが生まれます。

（大谷市長）
国のＳｏｃｉｅｔｙ５．０についての話が先ほど教育長よりありましたが，一方で「人生１００年」という話もありました。その中には，長く社会で活躍してもらい，学び働くという「マルチステージ」という内容もありましたが，社会人になってからの「学び」とは，学校教育の延長上にあるのか，それともまた別の考え方があるのでしょうか。「人生１００年」というキーワードの中において，教育長が考えられている１つのポイントとして，義務教育や子供達の教育にフォーカスにあててきましたが，その延長の中に，生涯の学ぶ姿勢という話があるのでしょうか。
それとも，社会人や大人になった後の学びに対しての教育については，違う視点やコンセプトが必要なのかということについていかがでしょうか。

（野沢教育長）
私は，学ぶ姿勢というのは，学校教育の延長線上にあると思っています。
色々なものに興味を持ち，試し，やってみて，「楽しい」「合わない」「勝った」などの感情が自分の満足感を刺激し，また周りの人達に貢献した成就感をもたらして，それが自信となり，自己肯定感となります。
色々な生き方があることを知り，歳を重ね自分があまり動けなくなってからも，自分にできることは何か考え，少しでも社会に出てみようとか，もっと何かを学んでみようとか，「生きがい」になるようなものを見つけること，その姿勢や意識を持てることが大切なのではないかと思います。
学習と聞くと，「国語・算数・理科・社会」を思い浮かべてしまうかと思いますが，そうではなくて，学習というのはもっと大きなものであり，学校は，そのなかの勉強，基本的な「国語・算数・理科・社会」を教えています。
今の学習指導要領の，「何を教えるか」だけでなく，学習の中で「どんな力が，どんな資質が身についたか」を子ども達に自覚させることが重要だと感じます。「自分にはこんな力がある」「自分は人とかかわることが得意だ」「自分はコンピュータが好きだ」「深く追求するほうが得意だ」とそういうものが見つけられることで，もっともっと良い生き方ができるのではないかと思います。

（大谷市長）
どうしてこのような投げ掛けをさせていただいたかといいますと，先日参加した「親父の会」で，７０代くらいの方々と今の３０代くらいの方々と仕事の

話をした際に，仕事の進め方や使っているツールが全く違うということがありました。今までもあった世代間ギャップが，時代が変化していく中で，ますます開いてきていて，更に拡がっていくのではないかと感じました。

人としての大事な部分に関しては，世代によらず共通することが多いですが，知識というものは，今まで正しかったものでも，新しいテクノロジーができたことで，その情報や考え方が逆にマイナスになってしまうこともあると思います。こういったジレンマに対してどう心構えを持っていければ，楽しく学び続けられるのか，自己肯定感を得られるのかということについて考えるところです。学び続ける姿勢が大事なのは変わりませんが，高齢となられた方々の，学びへの向き合い方や心構えも今後の１つのポイントになるのではないかと思います。

（野沢教育長）

私の父と母は８６歳になりますが，インターネットなどが苦手で全く使いません。かたや私の友達の親は同じ８６歳でも，スマートフォンを使いこなして，私達世代と同じような世界を生きています。

先ほど石田委員が仰いましたが，同じ年代の人の中でも，私の父と母は非常に不便な生活をしています。買い物一つとっても自分の足で歩いて行かなくてはいけない。でも長い距離を歩けなくなり，両親の社会は年々狭くなってきています。一方で，同じ年代の方の中には，インターネットを通じ世界を飛び越え，色々な活動している人もいます。両者は体力的には大きな差はありませんが，社会との関わりに大きな差があります。

そういう中で，いくつになっても学べるところがあればいいなと思います。年齢で学校が終わるのではなく，年代を超え，いくつになっても学べるところがあれば，私の父や母のような人達ももっと勉強をしたいと思ったのではないかなと感じています。知識はあっても，今の社会の情報がわからない。そういったものを学べるところがあれば，もっと便利になるのではないかなと感じます。

（大谷市長）

先ほど石田委員より情報の格差，情報弱者というお話もありましたが，そういったものが拡がる時期がきているのかもしれません。

（石田委員）

以前にテレビで放送されていたのですが，ある田舎で高齢者がインターネットを使い，「料理のつま」を町全体で提供する仕組みが紹介されていました。そ

の仕組みにより，高齢者に収入が生まれ，そのお金を家族のために使えることで高齢者に生きがいが生まれ，また町の活性化に繋がるという話でした。

年齢に関係なく高齢者にも使いやすいプログラムをつくり，そういったものが広まっていけばなと思います。今あるものより，更に使いやすい技術を高齢者へ提供できれば，高齢者の世界はもっと広がります。私達の年代でもスマートフォンを使わない，インターネットを使えない人もいますが，「歳を取って体が動かなくなってきたとき，インターネット通販ができないと不便だから，今から覚えておいた方が良い」と話をすることがあります。確かに，今後近くにお店がなくなった時，インターネットを通じて買い物をするという方法を身につけておかないと不便になると思います。そういう不便な思いをしなくて済むように，高齢者がより使いやすいプログラムで，注文しやすい方法が出てくれば良いなと思います。

（大谷市長）

そういうアプリケーションやサービスが，高齢化が進んだこれからの日本を支えるのでしょうね。また，このあと韓国や中国などで，それぞれ高齢化が進んでいきますので，その時に日本が培ったそのノウハウが輸出できるかも知れません。こういう変化する社会情勢に対応する力が国としての稼ぐ力になっていくこともあるのかもしれないですね。

変化といえば，インターネットのように世界の価値観と行動様式を変えたもので，これに匹敵するようなイノベーションが今後出てくるのかは分かりませんが，出てきた時には，もう私達の議論も古くなっているのかもしれません。様々なものが変わっていくなかで，変わらず人としてしっかりと幸せを感じ，充実した自分の生き方ができること，この実現には，色々な学びを継続し，生涯学んでいけるような選択肢を用意していくことが大切だと感じます。

また家庭が核家族になっているなかで，一番近くの安心できる人は，保護者であるお父さんやお母さんですが，色々な家庭の事情でお父さんやお母さんがいない家庭もあります。そういった時に，地域の第三者がその役割を持ち，愛を傾ける場所となれれば，子ども達が何かあった時に踏みとどまる一つの心の依りどころとなるのではないでしょうか。何か癪や癇に障るようなことがあった時，思わず良くないことをしてしまいそうな時に，誰かの顔や声などを思い出すことができれば，子ども達は思い留まることができると思いますので，そういう存在となれるような，かかわりのための時間を作っていけると良いと思います。

時間が迫ってまいりましたが，また継続的に皆さんと色々な意見交換をしたいと思っております。今までの議論も含めて，皆さんから一言いただきたい

と思います。石田委員からお願いします。

（石田委員）
　やはり学童後の子ども達の「居場所」というものを考えてほしいなと思いました。子ども達が楽しく放課後を過ごせるような環境ができてくるといいなと思います。

（西野委員）
　貧困世帯の子ども達がきちんと食事をとれているのか気になることがあります。例えば夏休みや冬休みのときに，子ども達は食事がきちんとできているのかなどについてです。小学生や中学生で，長期休暇など学校の給食がない時期に，どんな世帯の子どもでも成長に必要な食事がちゃんととれる，そういう環境ができたらなと思います。

（大谷市長）
　食は基本ですよね。

（西野委員）
　栄養バランスのとれた食事をとることで脳や体が成長し，また活性化すると思います。成長期の大事な時期に，それができないことは良くないことですから，中学生くらいまでの生活困窮世帯の子ども達に，食事の提供を行う社会的な必要性や価値があるのではないかなと漠然と思いました。

（白石委員）
　皆さんと似た内容になりますが，民間の学童クラブではおやつを提供していて，手作りの温かいご飯を食べることができます。こういう体験が仲間意識を育んでいくのではないかと思います。民間の学童では，利用者からお金をもらって運営していることだといえば，それまでの話ではありますが，学校学童でも，軽食や食事の提供ができないものかと思います。今は，核家族が増えてきていますし，誰かと一緒に過ごす食事の場は大事な環境だと思います。みんなで食事ができる場所，時間，そういった居場所が増えていけば親も安心できるし，そういう新しいコミュニティができてくればいいなと思いました。

（石川委員）
　先生方が，「ひたちなか市で教職に携われて本当に良かった」と思える学校であり，市でありたいと思います。そして他市町村からも，ぜひひたちなか市で

勤務がしたい，ひたちなか市の学校で勤務がしたい，と思われるようなそういう学校，ひたちなかになってほしいと思います。

（野沢教育長）
今は「学校を卒業して就職し，引退して，楽しい余生を暮らす」というライフコースの時代ではなくなってきていると感じています。教育があり，様々な働き方があり，その先で人とのかかわりや心の充実感といった無形資産が生まれ，そういうサイクルが生まれています。
子ども達には，こういう色々な可能性があるということや，様々な働き方や働き場所があること，誰かが助けてくれたり，また誰かに頼っても良いということを伝えて，「心や感動を大切にする」そういう思いを教育の中に様々なかたちで取り込めるよう，もう一度何をしていくことが大切かを考えてみたいと思います。

（大谷市長）
本日は限られた時間の中でしたが，皆さんとの議論，本当に有意義でありました。教育の大綱に関しては，今後色々な視点を取り入れながら，また作成を進めていきたいと思っております。一方でひたちなか市の総合計画の後期計画が平成３３年度から始まりますので，その準備を平成３１年度から始める予定です。「人をどのように育てるか」，教育というのは，まちづくりと切っても切れない関係ではないかと思っております。様々な動向をみながら，次の世代を担う人達，また今を生きる人達が，有意義にこのひたちなか市で暮らしていただけるよう，そのための指針となる大綱を作ってまいりたいと思っております。今後につきましても，引き続きご意見を寄せていただければありがたいと思っております。本日は本当にありがとうございました。
司会にお戻しします。

（司会）
時間が参りましたので，以上をもちまして平成３０年度第１回ひたちなか市総合教育会議を閉会します。皆様，本日はありがとうございました。